

2022年5月13日

各位

会社名 株式会社ソフトフロントホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 二通宏久
 (コード番号：2321 東証グロース)
 問合せ先 グループ業務推進室 室長 檀上 浜爾
 電話 03-6550-9270

通期連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ

2021年5月14日に公表しました2022年3月期（2021年4月1日～2022年3月31日）の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期業績予想と実績の差異

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 連結当期純利益
前回発表 (A)	百万円 360	百万円 10	百万円 10	百万円 —	円 銭 —
実績 (B)	377	△17	△34	△29	△1.02
差額 (B-A)	17	△27	△44	—	—
差額率 (%)	4.7	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	310	29	37	54	1.97

2. 業績予想との差異の理由

当社は、当社グループの主力製品である「telmee」「commubo」の商品力強化に主軸を置き営業活動に取り組みとともに、中期経営計画に基づき事業基盤の構築に努め、株式会社サイト・パブリスを簡易株式交付により子会社化いたしました。

その結果、売上高は前回予想を上回りましたが、営業利益及び経常利益ならびに当期純利益においては、前回予想を下回りました。

売上高につきましては、主力製品である「commubo」の販売活動におきまして昨今の経済環境を鑑み導入予定先において案件が持ち越されたことや製品導入提案活動にかかる工数が増加した影響が大きく、売上高への寄与に遅れが生じたものの、連結子会社となりました株式会社サイト・パブリスの損益を2022年3月期第4四半期において加算されたことから前回予想を上回りました。

営業利益については、「commubo」の販売活動の遅れと、経費削減を徹底的に実施したものの、簡易株式交付による株式交付に要した費用(株価算定費用、弁護士費用、アドバイザー費用等)及びのれん償却費用が発生したことにより営業利益において前回予想を下回りました。

また、子会社であった株式会社グッドスタイルカンパニー株式の譲渡に関連する金銭債権に係る貸倒引当金を計上しておりますが、2022年3月期連結会計期間において貸倒引当金繰入額13,071千円を営業外費用として計上したこと、子会社の株式会社ソフトフロントマーケティングの取引先であったOverFlow株式会社に対して2018年4月27日付にて金銭消費貸借契約書により金31,517千円（2022年3月31日現在貸付金残高 9,971千円）の貸付をいたしてはりましたが、同社の経営状況を鑑み、2022年3月期連結会計期間に

おきまして貸付金残高につきまして貸倒引当金繰入額4,733千円を営業外費用として計上した結果、経常利益において、前回予想を下回りました。

(注) 上記の内容は、本日（2022年5月13日）公表の「2022年3月期決算短信【日本基準】（連結）」に反映しております。

以 上